

## 早稲田大学 教育学部 世界史 講評

出題形式	マーク式
試験時間	60分
特徴・その他	記述式(昨2020年は10問)が消滅してすべて選択問題となった。ただ問題数は50問で昨年までと同じ。2017年に初めて登場した二文正誤判定問題と年代配列問題は今年も継承された。またて正誤判定問題では「すべて選べ」として回答数を明示しない設問が新たに登場した。これは厄介ものなので難易度は昨年に比べやや難化した。

## 〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
1	バルカンの歴史	(1)正解はb「ティリンス」。ミケーネ時代の重要遺跡はミケーネ、ティリンス、オルコメノスの3か所。古代ギリシア世界は教科書の付図も充実しているので学習しやすい。(2)正解はa。スパルタ中心の同盟は「ペロポネソス同盟」。「コリントス同盟(ヘラス同盟)」はカイロネイアの戦い(前337)の翌年(前336)にマケドニアの主導で成立。スパルタのみが不参加という点も重要。(3)正解c「ユスティニアヌス」は易しい。(4)正解はc。「11世紀前半、ビザンツ帝国に併合」までは正しいが「改宗」は9世紀。ブルガリアの正教受容については『用語集』にも記載がなく難しい。もともと現在キリル文字と呼ばれているロシア文字は、10世紀にブルガリアで成立したが、これは正教の受容の結果でもあった。正文3つの内容も非常に細かい。(5)正解はb。①は正文。②は「直後にバルカンに戻って…」が誤り。バヤジット1世は捕えられたまま死去しオスマン朝のスルタンは空位となり混乱が続いた。(6)正解はc「デブシルメ制」。スルタン直属の近衛歩兵として活躍したが、政争の具となることも多かった。(7)正解はa。エジプト＝トルコ戦争は1次(1831～33)と2次(1839～40)がある。1次ではエジプト(ムハンマド＝アリー)がシリア行政権を要求してトルコと開戦、そのトルコをロシアが支援した。ロシアの南下を嫌った英仏がエジプトを支援した。2次は、トルコと開戦したエジプトをフランスが支援、エジプトの台頭をきらった英仏露3国とプロイセン・オーストリアもトルコを支援した。(8)正解はb。a「セルビアが自治公国となる(1817)→d「ルーマニア自治公国をオスマン帝国が承認＝正式にはモルダヴィア・ワラキア連合公国として承認」→b「ブルガリアがロシアの保護下で自治公国＝サン＝ステファノ条約(1878.3)」→c「モンテネグロの独立が国際的に承認＝ベルリン条約(1878.6)」の順。サン＝ステファノ条約とベルリン条約の前後で判定が可能。(9)正解b「コミンフォルム」は易しい。(10)正解はc「ルーマニア」。89年の東欧革命で東欧の社会主義政権は総崩れとなった。しかしその中で最高指導者が殺害されたのはルーマニアだけ。東独・ポーランド・ハンガリーなどの社会主義政権は事実上ソ連の傀儡であったが、ルーマニアは自主政権で68年のソ連のチェコスロヴァキア介入にも反対するなどして存在感を示した。しかし傀儡でなかっただけに圧政と国民生活の窮乏、権力者の極端な奢侈は国民の強い反発を招いた。問1.正解はa「クロアチア人」。問2.正解はc「フランク」。a「神聖ローマ帝国」も間違いとはいき切れないが、クロアチア人はカール大帝時代にフランク教会を受容していることからこちらを選びたい。『用語集』の「クロアチア人」の項には7世紀にカトリックを受容したとあるが、厳密にはフランク教会である。	標準

番号	出題内容	コメント	難易度
2	歴史上の大学	<p>(1) 正解は d 「ノルマンディー公国の成立」(911)。ファースティマ朝(909～1171)。他の選択肢は12・13世紀なので選択はそれほど難しくない。(2) 正解は a 「カイロ」。アズハル学院からもファースティマ朝からも簡単に答えられる。(3) 正解は a で①・②とも正文。①は『用語集』の「商人ギルド」の説明とほぼ同文。(4) 正解は b。「シュマルカルデン同盟」はルター派諸侯が皇帝カール5世に対抗して結成(1530)。(5) 正解は a。bの「モンテコルヴィノ」は大都の大司教になったが大航海時代のイエズス会士のような暦の作成などは行っていない。cの「フランシスコ＝ザビエル」は日本布教のあと中国での布教活動をめざしたが許可を待たず廣東港外上川島で没した。(6) 正解は d。設立はオクスフォード大学12世紀後半、ケンブリッジ大学13世紀初。ケンブリッジはオクスフォードで起きた学生処刑事件を契機とする学内混乱を嫌って移動した学生たちを中心に成立した。(7) 正解は c 「徴兵制実施」。b 「人権宣言」(1789.7)→a 「王権停止＝8月10日事件」(1792.8)→c 「徴兵制」(1793.2)→「反ロベスピエール派クーデタ＝テルミドール反動」(1794.7)の順。(8) 正解は a。問題文の「この年に消滅した帝国」とは神聖ローマ帝国。ウェストファリア条約(1648)で「西ポンメルン」を獲得したのはスウェーデン。(9) 正解は a。問題文の「空欄に入る国」とはプロイセン。ティルジット条約(1807)でプロイセンはエルベ川左岸の地と旧ポーランド領を失った。前者にはウェストファリア公国、後者にはワルシャワ大公国が設けられたがアルザスとロレーヌは無関係。プロイセンがアルザス・ロレーヌを獲得するのは普仏戦争(1870～71)のフランクフルト講和条約(1871.5)。アルザス・ロレーヌは新生ドイツ帝国で帝国直轄領としてプロイセン王国が支配した。(10) 正解は a。マンチェスターで発達したのは「綿織物」。問1. 正解は b 「ジョン＝スチュアート＝ミル」と i 「参政権」。ミルは功利主義者として有名で自由貿易論者でもあった。問2. 正解は d 「ベンサム」と h 「幸福」。ベンサムの「最大多数の最大幸福」を想起できれば簡単。問3. 正解は a 「アダム＝スミス」と g 「経済活動」。</p>	標準
3	民族の移住・征服・移動	<p>(1) 正解は b。「半坡遺跡」は陝西省西安郊外。長江下流域で稲作が確認されたのは浙江省寧波郊外の河姆渡遺跡。(2) 正解は a。紙は後漢の蔡倫が改良して105年に和帝に献じ、それ以降広まった。『春秋』などそれ以前の書物は木簡・竹簡に記された。(3) 正解は a。秦の文字は篆書(戦国秦のものを大篆・統一秦のものを小篆と呼ぶ)。隸書は漢代に普及した字体。(4) 正解は d 「契丹」。(5) 正解は b。「蘭亭序」は王羲之の作。謝靈運は南朝宋の詩人で山水の美をうたった。(6) 正解は a。カタラウヌムの戦い(451)でアッティラ率いるフンは西ローマ・ゲルマン軍に敗北している。(7) 正解は b。①は正文。②の「レオ3世」は800年のカールの戴冠の際の教皇。(8) 正解は c。①の「ウクライナ人」は東スラヴ系。②は正文。(9) 正解は a。d 「道武帝即位」(386)→c 「華北統一」(439)→a 「三長制」(486)→b 「洛陽遷都」(494)の順。道武帝(拓跋珪)即位は細かいが『用語集』の説明文にはしっかり書いてある。孝文帝の施策は三長制と洛陽遷都と二つあるので年号をしっかりと覚えていないと難しい。(10) 正解は d。サファヴィー朝(1501～1736)を建国したのは神秘主義教団の指導者イスマーイール。彼はアゼルバイジャンの祭司出身。(11) 正解は b。柔然を滅ぼしたのは突厥(555年)。「キルギスの攻撃を受けて崩壊」したのはウイグル。(12) 正解は d。(13) 正解は c 「突厥とソグド人」。</p>	標準

番号	出題内容	コメント	難易度
3		ソグド人はサマルカンドー帯を居住地とする商業民族。突厥の遊牧帝国の勢力圏にそって活動し、南北朝時代から隋唐時代の中国でも活発に活動した。近年中国各地でソグド人の墓碑が多数発見され。その活動は再評価されている。	
4	清朝末期の変動	(1)正解はa。明清時代の著者と著作は頻出分野。覚えにくいので工夫が必要。b曹雪芹は『紅樓夢』(前半)の作者。『長生殿伝奇』の作者は洪昇。c馬致遠は元曲の最高傑作とされる『漢宮秋』の作者。『聊齋志異』の作者は蒲松齡。(2)正解はb・d。答がいくつあるか示さずに「すべて」という設問はストレスが大きい。a「キャフタ条約」(1727)とc「軍機処設置」はともに雍正帝時代。(3)正解はb。アヘンの栽培地はインド、輸出先は清。(4)正解はd「香港島の割讓」。a「外国公使の北京滞在」とb「外国人内地旅行の自由」はともにアロー戦争(1856～60)の天津条約(1858)の内容。cの「天津」はアロー戦争の北京条約(1860)。(5)正解はa「円明園」は頻出事項。(6)正解はa。「清との共同管理地」になったのはウスリー川以東の地。(7)正解はa「『海国図志』」。林則徐の依頼を受けて編纂された。bの『海国兵談』は和書。林子平の著。(8)正解はaとc。aの「開化派」は大元君ではなく金玉均。cの長崎清国水兵事件(1886)は世界史ではかすりもしないレベル。このとき長崎に入港した北洋艦隊には当時の日本海軍のものよりはるかに大型の戦艦(独製)を有していた。(9)正解はa。初代のハンはヌルハチである。(10)正解はc。①の曾國藩が組織したのは湘軍。淮軍は李鴻章。②は正文。(11)正解はaとc。aのアンコール=ワットに『マハーバーラタ』のレリーフがあることは細かいとはいえ知られた事実。cのチュラロンコン大王の近代化(チャクリ改革)の内容は難しい。留学生については『用語集』にも記載がない。留学推奨は事実だが、王室の子弟を対象としていたため、特権階級の西洋趣味を煽るだけの結果に終わった。(12)正解はa。d「琉球藩設置」(1872)→b「天津条約」(1858)→a「ビルマのインド帝国への併合」(1886)→c「韓国併合」(1910)の順。	やや難

### [総合コメント]

出題形式に大きな変化があり、記述式が消滅した。ただ昨年までの記述式部分(10題)は基礎的なものが大半で易しかった。そして「すべて選べ」として回答数を示さない出題形式が新登場した。これは非常にストレスを感じさせる形態。消滅した記述式と登場した厄介者の新タイプの選択問題で差し引き難しくなった。記述式が消えたとはいえ、とくに漢字文化圏の固有名詞については書いて覚えることは欠かせない。漢字は書いてこそ記憶に残ることは忘れないでもらいたい。二文正誤には細かいポイントが判断基準になるものが目立つようになった。山川の『用語集』を徹底して読み込み、年代も条約・戦争・王朝の始まりと終わりなどは徹底して記憶するように心がけたい。また大問4の「長崎清国水兵事件」のようなマイナーなポイントへの対応は難しい。日本史を徹底的にやり込めば対応できるが必要とされる時間と労力は想像を絶することになる。ある程度は勘に頼らざるをえない。その種の勘を研ぎ澄ますためには難問を多くこなすのが一番である。「すべて選べ」式は2011年までの社会科学部では毎年のように出題されていた。演習問題としておすすめである。